

～人権が尊重されるまちをつくろう～

～身近な生活の中から学ぼう～

2019.6.21

第68号



# 人権・同和教育だより 丹波篠山

発行

丹波篠山市  
人権・同和教育研究協議会

TEL・FAX 079-593-1260  
http://www.pure.ne.jp/~jinken/index.html

〒669-2734 丹波篠山市宮田240  
丹波篠山市役所 西紀支所3F

年3回発行 6・10・2月

## 2019年度 丹波篠山市 第21回 定期総会開催

5月18日に丹波篠山市民センターにおいて第21回定期総会を開催しました。

開会行事では7名の来賓を代表して、酒井隆明市長よりご挨拶を頂きました。

記念講演では、部落解放同盟兵庫県連合会副委員長・関西学院大学非常勤講師の細田勉さんに「日常生活の中での差別解消に向けた取り組み」と題してお話をうかがいました。

議事においては、活動方針ならびに事業計画・予算が承認されました。



### 基本方針(要旨)

1. 部落差別をはじめ、あらゆる人権課題の解消を図り、「人権のまちづくり」を推し進めるため、人権・同和教育啓発活動の活性化と充実に努めます。
2. 人権関係法令の理念を踏まえ、人権文化の創造と実践を進めるため、関係団体、機関等と連帯して取り組みます。
3. 市民の学習活動の場を確保し、人権感覚を培い、差別を許さない市民意識の醸成、「人権意識の高い世間づくり」に努め、共に生きる市民社会をめざします。

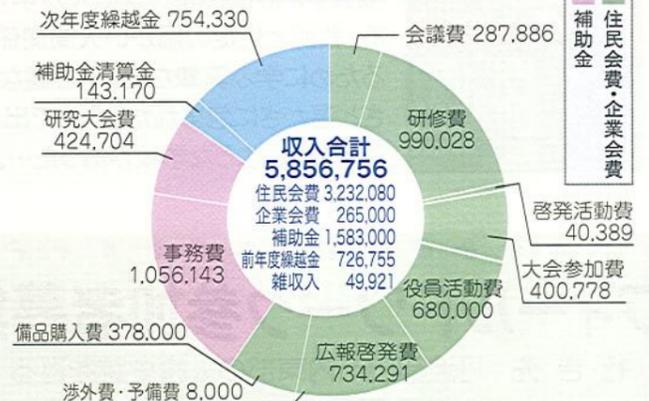
### 活動方針(要旨)

本年度は、「差別解消三法」等人権関係法令の周知と理解に努め、「誰もが幸せに生きることのできる社会」「誰もが住みよい社会」の実現のために、人権が尊重された地域づくりに取り組みます。

また、学習機会を増やし、人権を体感する研修を工夫することで、人権・同和学习への関心を高めていきます。

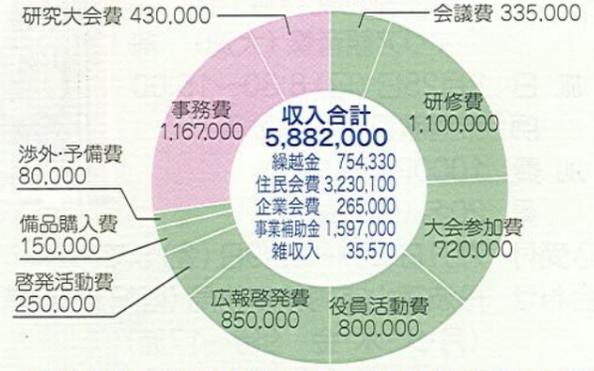
「人間は尊敬すべきもの」(水平社宣言)の理念の基、先人の熱い思いを大切に、互いに学び合い、直面する様々な人権課題の解消に真摯に取り組んでまいります。

### 2018年度決算(単位:円)



※補助金は、市からの補助金8,933,000円より人件費7,350,000円を除いた事業補助金です。

### 2019年度予算(単位:円)



※事業補助金(事務費+研究大会費)1,597,000円は、市からの事業補助金8,932,000円より人件費7,335,000円を除いたものです



### 記念講演

講師 部落解放同盟兵庫県連合会副委員長 関西学院大学非常勤講師 細田 勉さん

演題 「日常生活の中での差別解消に向けた取り組み」

### 若者の部落問題の意識

私の大学の学生の部落問題に対する意識を紹介します。実施したアンケートでは、ほとんどの学生は部落問題があることを「学校の授業で知った」と答えています。そのうちの約75%が被差別部落にマイナスイメージを持っています。また、約50%は「部落差別はない」と答えています。部落差別はなくなった。過去の問題だと認識しているのです。関心はあるのですが、誰一人、被差別部落に入ったこともなければ、交流をしたこともありません。若者世代は、具体的な出会いなしにイメージを作り上げているので、事象に出会ったときには、差別に向く可能性が強いです。この現実を踏まえて、もう一度部落問題学習を考えていかなければなりません。

### 意識調査より

丹波市は2018年に意識調査をしました。その結果、気になることが3点あります。

- ①結婚問題で、「部落の人だからといってこだわりません」が63%ですが、「部落問題に関わる取り組みには参加しない」「被差別部落の地域内には住まない」などと、条件をあげる人もいます。特にひどいのは、「子どもはつぐらなない」という条件を付ける人もいます。
- ②住宅の購入や賃貸で、「校区内に被差別部落がある場合どうしますか」という問いに、「避ける」という人が23%います。ところが、回答なしが29%です。無関心、他人事です。

③差別があるかないかという問いに、「差別はない」と「無回答」が合わせて80%、「ある」が20%です。結婚差別に関しては「ない」が47%です。「部落差別はない」あるいは「無関心」という意識が強いです。

### 部落問題の課題と解決へ向けて

部落差別解消推進法は、現在もなお部落差別があると謳っています。しかし、意識調査では5割以上の方が部落差別は「ない」、結婚問題では約5割の方が差別は「ない」と言っています。現実には、インターネット上に差別書き込みがあります。また、2割以上の方が「結婚に反対する」「地域には住まない」と言っています。それにもかかわらず差別はないという、この意識の乖離が今の一番の大きな課題です。調査をさらに見ていくと、「自分には関係ない」が1.4%、「自分ではどうしようもない」が18.9%、「そっとしておけば自然になくなる」が19.1%で、合計すると約40%の人が無関心です。部落差別をなくすために積極的に関わるとの意識を持っている人が27.7%と3割にも満たないのです。その中で教育、研究、学習の取り組みをしなければなりません。

推進法の周知に終わらず、部落差別が今もあり、差別をしている人がいることを自覚し、自分たちの生活と関わりがあるということに気づき、なくしていくことが、私たちの幸せにつながることを理解することが大切です。

### いい出会い直しを

マイナスイメージを持っている学生には、もう一度、部落の人たちとの出会い直しをして欲しいです。それと、子ども達にもいい出会いをさせて欲しいです。

被差別部落には、それぞれの地域の歴史があり、そこに生きた人々がいます。差別に抗いながら、創造力を持って豊かに生きてきた人々です。差別があるからかわいそうではなく、その中でどう生きてきたかということを見て欲しいです。

もう一度、日常の中の生活の見直しと、自分たちの近くにある差別、そこで生きてきた人たちの生き方を学びながら、そのことを子ども達に伝えることで、日々の人権学習、部落問題学習をしていただければ大変嬉しいです。

人権・同和教育を正しく理解し、自分自身や人を敬い、心あたたかな丹波篠山市をつくり上げていきましょう。  
今年度も、丹波篠山市同教へのご支援ご協力をよろしくお願いたします。

### 役員紹介

会長	溝畑 賢
副会長	五十山 田潤
理事	宇杉 昌史
理事	酒井 幸久
理事	溝端 洋美
理事	太田 鈴子
理事	中川 敬市
理事	山崎 義博
理事	大藤 和人
理事	森本 正己
顧問	(団体選出) 46名



会長 溝畑 賢

2019年度の  
出発にあたり

# みんなの人権を考える映画会

映画『**こんばんは**』 **入場無料!!**

**とき** 2019年8月11日(日) 14:00~  
**ところ** 丹波篠山市民センター・多目的ホール



映画の舞台は東京都墨田区の夜間学級。そこには様々な理由で『普通に学ぶ機会』を得られなかった人が学んでいる。教師と生徒の温かい人間関係、生きるために学ぶ真摯な姿。不思議なやさしさと温かさに包まれた、今まで出会ったことのないような学校があった…。

# フィールドワーク参加者募集!!

- 行き先 丹波篠山市内東部の人権史跡を巡る
  - ◇ 義民 万屋半左衛門慰霊碑 (福住)
  - ◇ 柿の木地蔵 (二ノ坪)
  - ◇ 藤木幸助記念碑 (泉)
  - ◇ マリア観音像 (大淵) 等
- 実施日 8月25日(日) 8:30~15:00
- 講師 市同教啓発推進委員
- 参加費 1000円(昼食代)
- 定員 20名(先着順)
- 申込受付 7月1日(月)~8月9日(金)まで
- 問い合わせ 丹波篠山市同教事務局(西紀支所3階)  
(月・火・木・金 9時~17時)  
TEL・FAX 079-593-1260



マリア観音像

# 和尚さんたちがフィールドワーク

2019年2月に行われた曹洞宗兵庫第2宗務所(丹波・但馬地区)のフィールドワークを紹介します。

今回は、32名の僧侶の皆様が市内の人権史跡を巡り研修をされました。市同教講師より講話の後、岡屋刑場、篠山小学校にあった民族学級、市原村清兵衛顕彰碑、大対勇三郎翁碑、柿の木地蔵、マリア観音像を訪れました。

岡屋の刑場、二ノ坪の柿の木地蔵では、全員でお経をあげられました。



# 人権史跡フィールドワーク やってみませんか?

人権史跡を知ることは、私たちの先人の生き様を知ることです。市内には、過酷な藩政に抗った人々の足跡や生活向上のために立ち上がった人々の碑、教育や文化の拠点など様々な史跡があります。

そうした史跡を巡って見ませんか?フィールドワークを希望される団体には、市同教より、上限1万円の講師料を補助します。詳しくは市同教までお問い合わせください。

お問い合わせ先: 丹波篠山市人権同和教育研究協議会事務局  
事務所: 丹波篠山市宮田240丹波篠山市役所西紀支所3階  
☎079-593-1260

# 暮らしの中から

## “家族”を感じていますか



連休終盤から風邪みたいな症状がなかなか治らず、およそ1カ月近く、精彩を欠いた日々が続きました。

その最中の食事とき、小学1年生の子どもが「父ちゃん、チーズを食べたら元気になるんちゃう」と言い、いそいそと冷蔵庫からチーズを取り出してくれたのです。しんどいままだと遊んでもらえないと、子どもなりに思ったのでしょう。親子の間柄でも、そう言われると嬉しいものです。家族って、ありがたいです。

最近、子どもや親への虐待、夫婦間の暴行など、「家族って何だろう」と考えてしまうような出来事が、報道されています。でも、事件が多すぎるのか、私たちは“またか”ぐらいで片付けているような気がします。加えて、「〇〇の対応が悪かった」と、当事者(家族)以外の責任に言及している場合も少なくありません。

今から四半世紀前の1994年、国連により「国際家族年」が定められ、その指針に「家族からはじまる小さな民主主義」が掲げられました。言うなれば、“家族の義務”とか“家族の責任”といった意味合いが込められています。実は、その時から、家族の危機が叫ばれていたのです。

子どもが成長するにつれ、何気ない日常にも、親は親として子どもは子どもとして果たしている役割や責務があることを、感じるようになってきました。3、4年前に祖父母が相次いで亡くなったことも、家族を考えるきっかけになっています。

ところで、もうひとつ嬉しいことがありました。自分のマイナス経験から、自動車を運転する妻や両親に対して「近いところほど気を付けや」とよく言うのですが、この前、父が「そう言ってもらってありがたいわぁ」と切り返すではありませんか。まぁ、こっちは親子の間柄ですもんね…。

(安井 聡博)

## 免許自主返納~家庭内の話し合い~

高齢者が加害者となる交通事故が多発している。主に原因とされているのはアクセルとブレーキの踏み間違いといわれている。

平成10年から始まった『免許証自主返納制度』。私の両親も近年自主返納した。それに行きつくまでには、紆余曲折の話し合いがある。母には、「買物一緒に行くから」、ヘビースモーカーの父には、「たばこ買って来るから」などなど好条件を提示して納得した。

両親が免許証を自主返納したことを知人に話すと「えっ、ご両親認知症なん?」と返ってきた。自主返納するということが、認知症というイメージなのかとショックだった。認知症という病気を理解していても唐突に言われたので大変驚いた。

自主返納は、医師の認知症・能力の低下の診断などがあれば説得しやすいが、警察であっても強制的には行えない。その言葉のとおり自身で考え、納得した上で返すということが「自主」という言葉が表している。

しかしながら、家族からすると危なかったらいけない、他人に迷惑かけたらいけない、けが・命の責任はとれないと思うのは当たり前。なかなか親に「返納したら」とも言いにくいと思っている方もいるのではないだろうか。「衰えてきたから運転あぶないよ」なんてなかなか言えない。もちろん自分もハンドルを握っているのでよけいに言えない。

きわめて切実な問題なので、家庭内で話し合っってルールを決めるのも一つの方法かもしれませんね。

(西 ゆり子)



## 主な行事予定

- \* 7月27日(土)  
兵庫県人権教育研究大会 丹波地区大会  
四季の森生涯学習センター他
- \* 9月29日(日)  
兵庫県人権教育研究大会 中央大会 豊岡市民会館
- \* 11月30日、12月1日(土・日)  
全国人権・同和教育研究大会 三重県大会 津市
- \* 12月7日(土)  
丹波篠山市人権・同和教育研究大会 四季の森生涯学習センター他



## 編集委員紹介

安井 聡博 西田こず枝  
西 ゆり子 細見 秀司  
中井慎太郎 森田 貞二

本年度は2名の新しい編集員を加えて、6名の委員で編集を行います。

皆様に親しまれる会報をめざして、紙面づくりに取り組めます。

## 編集後記

この度の、市名変更に伴い、本協議会においても「丹波篠山市人権・同和教育研究協議会」と名称変更をしました。また、会報も、「人権・同和教育だより 丹波篠山」と変更します。

5月には総会で活動方針・事業計画が決議されました。

丹波篠山市同教は、だれもが幸せに生きる人権尊重の社会づくりをめざして、住民や企業の皆様にご協力いただいた会費をもとに、研修会や研究大会を中心として教育・啓発に取り組んでまいります。

新組織のもと、さらに人権啓発活動を充実させていきます。皆様には、会費納入にご協力をたまわると共に、諸活動に積極的な参加をお願いします。